

2019年度事業計画書

I 概況

1. 入館者数 100,000人

2018年度は入館者数増と認知度を高めるため、様々な展示・イベントを開催いたしました。特に、春に開催した長嶋茂雄氏のプロ入り60周年記念の企画展、そして夏には第100回全国高校野球選手権大会記念展として、全国から夏の大会最多出場高校のユニホームを一堂に展示するなどが大好評を得、大幅な増員に繋がりました。また、夏休み期間には、昨年続き地元文京区そして野球文化振興の相互協力に関する協定を締結した船橋市以外に、新しく周辺地区の豊島区、港区の校長会に出席し積極的に働きかけました。さらに、各企画展に応じたトークショーを適宜開催し、話題性を高めました。この様に、幅広い年齢層にわたり、様々な企画を開催し野球の振興・普及に努めた結果、入館者数は、前年比10%増の約108千人になる見通しです。

2019年度は、開館60周年に相応しい企画展、イベントを開催いたしますが、高校野球記念展の特殊要因がないことで、厳しい状況が予想されることから、昨年度と同数の入館者数100,000人を目指してまいります。

2. 野球殿堂

今年の野球殿堂入りが決定した立浪和義氏、権藤博氏の表彰式を、7月中旬に開催されるオールスター戦で行います。また、特別表彰の脇村春夫氏の表彰式につきましては、現在検討中であります。

恒例通り、表彰式終了後に、顕彰者ゆかりの品々を展示する「野球殿堂入り特別展」を殿堂ホールにて開催いたします。

3. 維持会員数の拡大と制度の充実

維持会員加入を促進するため、会員制度の見直しを図り、各種特典の充実と積極的な案内活動を行います。

4. 殿堂入り特別表彰研究会の設置

研究会を設置して、様々な分野で、日本野球の発展・振興に多大な功績を残しながら、未だ評価されていない功労者を、掘り起こし、顕彰するに相応しいか研究・検討するとともに、表彰制度についても研究・検討してまいります。

5. その他

「リニューアル検討委員会」で提言された、殿堂入りレリーフ掲額什器を製作、設置し、殿堂ホールの掲額スペースの拡充を図ります。

さらに、館内に検討チームを発足し、提言された課題達成に取り組んでまいります。

Ⅱ 館内活動

【図書室】

<ベースボール・インフォメーション・センター化に向けて>

- (1) 図書管理システムへ資料の登録を行う。
- (2) 図書・雑誌の目録をオンライン（OPAC）で公開する。

<収集>

- (1) プロ野球や高校、大学、社会人、軟式、女子野球等の資料を収集する。
- (2) 外国語の野球に関する書籍・雑誌を収集する。
- (3) 野球漫画を収集する。

<整理・保存・活用>

- (1) 図書室内の整理を行い、分類別の配架を徹底する。
- (2) 野球に関係がなく、利用が少ない資料の処遇について検討を行い、適切に対応する。
- (3) 財産目録上にある資料の処遇について検討を行う。
- (4) スプリングラー対策のため、はっ水加工した中性紙のボックスや、防水性のスライドチャック式アーカイバル用品を継続して導入する。
- (5) 紙の酸化による資料の劣化を防ぐため、脱酸処理を行う。
- (6) 野球界の出来事と連動する書籍を「図書紹介コーナー」で紹介する。
- (7) 複本を国立国会図書館などの図書館へ寄贈し、野球関係資料の分散保存を進める。

<調査研究>

- (1) 自由研究に対応する資料を作成するため、調査研究を行う。

<著作権処理>

- (1) 日本複製権センターとの契約を継続し、同センターに委託されている著作物の著作権料を納める。
- (2) 私立図書館としての法的な整備を進める。

【学芸員室】

<収集>

- (1) 資料収集方針に沿って資料を収集し、コレクションの充実を図る。

< 整理・保存・活用 >

- (1) 分類別収蔵を徹底し、収蔵環境向上に努める。また、報道写真展で展示した大判写真類やトロフィー類の箱等を館外倉庫に移し、館内収蔵庫の整理を進める。

< 企画展・特別展 >

- (1) 開館60周年記念展「野球殿堂ってなあに？」(仮)
3月15日(金)～6月23日(日)
- (2) 「第90回都市対抗野球大会記念展」 6月末～7月25日(木)
- (3) 「野球で自由研究！」 7月初旬～8月末 ※イベントホールで開催
- (4) 「野球殿堂入り特別展」 7月12日(金)～9月29日(日)
※殿堂ホールで開催
- (5) 「平成の高校野球」 7月末～11月末
- (6) 「野球で自由研究！2019コンテスト作品展」 11月
※殿堂ホールで開催予定
- (7) 企画展「野球報道写真展2019」 12月中旬～2020年2月末

[常設展・特集展示]

- (1) 全日本大学野球選手権大会 6月
- (2) 川上哲治氏生誕100年記念展示 2020年1月～2月

< イベント >

- (1) 野球シーズン開幕イベント 4月
- (2) ゴールデンウイークイベント 5月
- (3) 開館記念日イベント
- (4) 12球団デー
- (5) 野球殿堂入りの方々によるトークイベント
- (6) 野球で自由研究！関係イベント
審判員、記録員イベント、バット製作実演、グラブ製作教室等
- (7) 野球殿堂アプリ関係

< 調査・研究 >

- (1) 企画展・特別展開催に際し、それぞれのテーマについて情報を収集する。
- (2) 引き続き19世紀の日本野球の調査研究を続ける。
- (3) 2020年東京オリンピックに向け、五輪と野球に関する調査を行う。

< 学校教育との連携 >

- (1) 学芸員課程の履修学生を、夏休み期間中に実習生として受入れる。

<教育普及活動>

- (1) 学校教育向け体験学習プログラムの対応を行う。2019年度の受入れは、原則として平日の火、水、木、金で①10:30、②13:00の1日2組とし、「野球の歴史」「野球界」「野球殿堂博物館」「野球にまつわる仕事」等についての質疑応答を行う。
- (2) 夏休み企画「野球で自由研究！」開催に際し、展示だけでなく、小学生を対象としたイベントを開催する。

【普及・広報活動】

- (1) 企画展やイベント情報を積極的にテレビ、ラジオ、新聞、情報誌などにリリースし、マスコミへの広報に努める。また、チラシやポスターを製作し、東京ドーム構内や首都圏の本拠地球場、近隣施設等で配布、掲示し、周知に努める。
- (2) ホームページやSNSで企画展やイベント情報を紹介するとともに、収蔵品紹介の内容をさらに充実させる。
- (3) 当館を紹介する記事、番組の取材や撮影に積極的に協力してPRに努める。
- (4) NPB、アマチュア野球関係団体に働き掛け、当館を利用したイベント、記者会見等を積極的に誘致し、館内の有効利用に努める。
- (5) 「ニュースレター」を年4回発行し、配布する。
- (6) 新年度のパンフレットの作製、英文パンフレットの更新を行い、来館者等に配布する。
- (7) 維持会員の募集を積極的に促進する。

【大会・会議等への参加】

- (1) 日本博物館協会や東京都博物館協議会、日本図書館協会や日本体育図書館協議会、専門図書館協議会などの大会や総会、研修会に参加し、情報交換などを行う。
- (2) スポーツ系の博物館・図書館との連携を保つ。
- (3) 国立国会図書館が提供している「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の導入を検討する。

【建物設備の維持管理】

- (1) 空調設備の室外機、室内機の保守点検を、年4回専門業者に委託して、維持管理につとめる。
- (2) 映像設備のランプ交換を年1回行う。
- (3) 消防設備の保守点検を年2回行う。
- (4) 自動扉の点検を、年3回専門業者に委託して行う。
- (5) エレベーターの保守点検を、年4回専門業者に委託して行う。

(6) 受付ポスレジシステムの点検を、年2回専門業者に委託して行う。

(7) 館内カーペット洗浄を実施する。

【収益事業】

(1) 引き続き、NPB統一試合球やオリジナルスコアブック、当館オリジナル商品、ポストカードの販売に力を入れる。また、企画展や特別展と連動した商品販売を行う。

(2) 立浪和義氏、権藤博氏の野球殿堂入り記念サインボールを、NPBオンラインショップで販売する。

(3) 2018年野球殿堂入り・松井秀喜氏レプリカレリーフを引き続き販売する。

Ⅲ 館外活動

(1) 館外貸出

野球界関連の団体、公共団体、類縁機関などの展覧会やイベントに際し、資料貸出だけではなく、企画内容に関する相談にも対応するなど積極的に協力し、野球の底辺拡大に努めるとともに、野球殿堂博物館の認知度を高める。

(2) 船橋市との相互協力協定

2017年4月22日、千葉県船橋市と、野球文化の振興に関する相互協力のための協定を締結した。今年度も引き続き、同市と情報交換、調査・研究、広報活動などで相互支援を行う。

(3) ICOM KYOTO 2019

国際博物館会議京都大会への参加。

Ⅳ 野球殿堂関連の事業

(1) 2019年に野球殿堂入りされた立浪和義氏、権藤博氏、脇村春夫氏のレリーフ制作を、彫刻家 松田光司氏に依頼するとともに、競技者表彰2氏の表彰式を、プロ野球オールスター・ゲームの試合開始前に開催できるように調整する。また、特別表彰の脇村氏の表彰式については、現在検討中である。

(2) 特別表彰研究会（仮称）を設置して、様々な分野で日本の野球の発展・振興に多大な功績を残しながら、未だ評価されていない功労者を顕彰するに相応しいか研究・検討するとともに、表彰制度についても研究・検討する。

(3) 野球殿堂入り特別展を、7月から9月にかけて、3氏の写真パネル・借用資料・当館の収蔵物等を展示して、野球殿堂ホールにて開催する。

(4) 2020年の野球殿堂入り有資格者の調査を行い、基礎資料を作成する。その資料をもとに、競技者表彰委員会の幹事による幹事会を、東京と大阪で開催し、翌年の野球殿堂入りの候補者を決定、候補者リストを発表する。

(5) 競技者表彰委員会委員の異動調査を、各社の代表を通じて行った後、各社代表経由で、各社の委員に投票用紙等を配布、期限を定めて、記名投票にて、投票用紙の回収を行う。その後、競技者表彰委員会東京幹事会の幹事により、開票

作業を行う。

- (6) 特別表彰委員会候補者選考委員会を開催し、次年度の候補者を決定、特別表彰委員に対して、事前に投票用資料を郵送する。その後、特別表彰委員会を開催し、野球殿堂入りの投開票を行う。
- (7) 競技者・特別両委員会の2020年野球殿堂入り通知式を、当館の野球殿堂ホールにて行い、終了後、東京ドームホテルにて、野球殿堂入りされた方々と関係者の懇親会を開催する。